opusdei.org

## 53. ニケア公会議で 何が起こりました か?

この公会議は、教会が安定した平和を享受することができ、公に集会を開くことが出来ようになった状況下で開催されました。会議は325年5月20日より7月25日の期間で開催されました

2016/09/28

第1二ケアア公会議は最初の公会議 です。すなわちキリスト教徒が存在 するあらゆる地域の司教たちが一同 に会したという意味で普遍的な性格 をもつ会議でした。この公会議は、 教会が安定した平和を享受すること ができ、公に集会を開くことが出来 ようになった状況下で開催されまし た。会議は325年5月20日より7月25 日の期間で開催されました。その会 議には、つい最近まで行われていた 迫害の中で信仰を貫いたがために刑 に処せられ体に傷を負った司教たち も参加していました。その会議が行 われた時にはまだ洗礼を受けていな かった皇帝コンスタンティヌスは司 教たちの参加を容易にするために、 帝国の駅舎を彼らが旅行に使用でき るように開放し、また、ニコメディ アの皇帝住居に近かったビティニア の二ケアで司教たちをもてなしまし た。324年にリキニウスに戦いで勝 ち帝国の再統一を図ったばかりの皇 帝にとって、この会議は非常に時宜 を得ていると思えたのでした。ま た、同時に、イエス・キリストの真

の神性を否定する司祭アリウスにより揺れていたキリスト教会の統一を図りたいと考えたのでした。318年以来、アレクサンドリアの司教アウスは、アレクサンジーと対立しないました。 は、おいて破門されていましたアリウスはであったコングであったコングであった。 抜け出し、友人であったコとに逃れている自教エウセビオスのもとに逃れていました。

公会議の教父の中にその当時の最も 重要な聖職者も含まれていまれたと思われと思われと思われと思われしるを務めたと思われしていまれたと思かれますの司教オージをはスアルケースをいたがある。コい時のサンドラの司教マリース教ののカイナース教のカイナースをでいたがいて、アイスをディオス等がいて、その当時の当時の対した。

他に高齢のために出席できなかった ローマの司教の代理を務めた数名の 司祭がいました。更に、アリウスの 友人であったカイサリアのエウセビ オスやニコメディアのエウセビオ ス、その他何人かのアリウス支持者 も出席していました。全部で約300 人もの司教が参加していました。皇 帝コンスタンティヌスの好意をあて にしたアリウスの支持者たちは、公 会議はただちに自分たちの主張を受 け入れるだろうと考えていました。 しかしながら、ニコメディアのエウ セビオスが、キリストは高く傑出し ているが人間以上ではなくまた神性 がないと述べて口火を切ったとき、 出席者の大多数はただちにその主張 は使徒たちから受け継いだ信仰を裏 切るものであると気づきました。重 大な混乱を避けるため、公会議の教 父たちは、カイサリア教会の洗礼用 信条をもとに、信条を作成しまし た。その信条は、キリスト教の最初 の時代から受け入れられ認められた

信仰の真の宣言を総合的かつ明白に 反映したものです。その信条では、 イエス・キリストは「父と同じ本 質、神よりの神、光よりの光、真の神 神からの真の神、造られずして生まれた、父と同一実体である」とここと れています。二人の司教を除くにまれての公会議の教父たちはこの信条 を二ケア信条として325年6月19日に 承認しました。

プルの司教にアリウスを教会との交 わりに復帰させるように命じまし た。一方、アレクサンダーの死によ りアタナシオスはアレクサンドリア の司教となりました。4世紀におけ る教会の中で最も偉大な人物の一人 であったアタナシオスは、極めて優 れた見識をもってニケア信条を擁護 しましたが、まさにそのために皇帝 により国外へ追放されてしまいまし た。アリウス派の考えに近い歴史家 のカイサリアのエウセビウスは、そ の著書の中でニケア公会議でのコン スタンティヌス帝の影響をいささか 誇張して記述しています。もしこの 文献のみを手がかりにするなら、皇 帝は会議の最初の挨拶の言葉を述べ るのみならず公会議に出席した司教 たちに対して教義上の問題を提起し 対立する人々を和解させ、一致を同 復させる主役を演じたことになりま す。それは事実を歪めた記録です。 入手可能なあらゆる諸文献を調べる と、確かにコンスタンティヌスは二

ケア公会議の開催を容易にし、実際 その会議に影響を与え、そしてあら ゆる協力をしたと言えるでしょう。 しかしながら、文献を更に深く調べ ると皇帝は二ケア信徒の作成に何ら 影響を与えていないことが分かりま す。というのも、そこで議論された 問題で采配をふる神学的知識を持ち 合わせていなかったからです。特に 公会議で承認された信条は、アリウ ス派に傾いていた皇帝自身の考え方 にはそぐわないものでした。皇帝 は、イエス・キリストを神ではなく 卓越した人物であると考えていたの です。

参考書: Alois GRILLMEIER, Cristo en la tradición cristiana: desde el concilio de Calcedonia (451), Sígueme, Salamanca 1997; Javier PAREDES (ed.) y otros, Diccionario de los Papas y concilios, Ariel, Barcelona 1998.

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/iesu-shitsumon-53/ (2025/12/11)